

勇気を受け継ぐ～マヤ先住民族女性を招いて
アナ・ペレスさんスピーキングツアー in 札幌

小松田 初美(アイヌの女の会)

6月16日から7月4日まで、「勇気を受け継ぐ」と題してグアテマラからコナビグア(連れあいを奪われた女性たちの会)のアナ・ペレスさんをお招きして全国18カ所でスピーキングツアーが行われました。日本ラテンアメリカ協力ネットワーク(以下、レコム)を中心にコナビグア招聘実行委員会を結成(当会も参加)、以下は、札幌からの報告です。

遠い国グアテマラからアナさんを迎えて

アナ・ペレスさんに初めて会ったのは6月30日、千歳空港にアナさんと通訳の新川志保子さんをお迎えに行った時。少し飛行機が遅れ、私を含め出迎えの3人はガラス越しに2人を待つこと30分位、その間、アナさんの体調が思わしくないことを聞き、皆で心配しながら待っていました。ようやくアナさんと新川さんが到着、新川さんはアナさんを支えるようにトイレに行き、やはり内心不安でした。まず、アナさんは病院に行くことになりました。アナさんの荷物を持ちながら駐車場に行くまでの間、新川さんにアナさんの食事の好きな物と嫌いな物を聞きました。「アナは、油っこい物が嫌い。刺し身も魚介類も生臭くて嫌いな。でも、鹿の肉が大好きなのよ」。あらま、アイヌの料理なら、きっと食べられるかもと思いました。

アナさんたちは、札幌滞在中はアイヌの女の会の島崎直美さん宅にスティすることになっていて、私も図々しく島崎さん宅に泊めていただくことになり、これからどんな話があるのか期待と不安(これは言葉の壁です)、それからアナさんの体調が気になったりで、病院からの帰りを待っていました。その日から、さっぽろ自由学校「遊」やレコムのメンバーなどが集まり、最初緊張していたアナさんも少しずつ話し始めました。アナさんの体調不良は、親知らずがななめに生えてきたため、痛みがかなりあったそうですが、医者への応急処置により、少しは楽になったとのこと(後日談：札幌最終日の7月3日夜に抜歯し、4日の東京講演は腫れがひかないためアナさんが欠席する事態となった)。

その夜は、慣れない日本で、かなり疲れもあり、体調不良……。私は、マッサージは嫌かどうか新川さんに通訳してもらい、「マッサージしてほしいと、アナが言っている」というので、私流ではありますが、痛くないか、強すぎないか、特にマッサージしてもらいたいところなどを聞き、アナさんの体をいたわりながら一生懸命もみました。通訳をしながら私の横にいた新川さんが「アナの体は拷問による火傷があるのよ。唇とか足とか、背中にも傷あとがあるのよ」と教えてくれました。唇はなぜ黒いのかなと思っていたら、火傷のあと、足は本人が見せてくれました。マッサージの時、背中にも生々しく傷あとが残っていました。これが軍による拷問なんだ、許せないと思う気持ちと、果たして私なら? 耐えられない、と胸が痛かったです。

翌日は、島崎さんがよく行っている専門のマッサージ師に頼み、アナさんと新川さん2人がマッサージを受けてもらいました。マッサージを受け終わった顔は、少しではあるけれど、元気を取り戻したみたい

に爽やかな顔をしていました。

グアテマラへようこそ

マヤ民族の言葉は22言語あり、アナさんの母語がポプティ語、そしてスペイン語を話します。いくつかポプティ語を教えてもらったけれど、難しいです。レコムの時沢亜佐子さんがスペイン語会話の本を持っていたので、図々しく、それもかなり図々しく借りて、本を片手にしどろもどろながら私も必死です。通じたのかどうか分かりませんが、ジョークを言ってお互い笑ったり、「よし、頑張るぞ」と気合いが入りました。

儀式とお守り

アナさんに儀式について聞いてみました。マヤ民族もアイヌ民族も、儀式に“火”は不可欠です。アイヌ民族は家の中の炉（ロッタ）の火に祈り、お酒（トノト＝米から作ったどぶろく）を使います。マヤ民族の儀式は、まず地面に石で輪を作り、そこに木をクロスさせて置き、その木に火をつけます。月、太陽、星の位置、それから東南西北も重要だそうです。

マヤは石をお守りにしています。アナさんが身につけていた石はとても綺麗で、まるでアイヌのタマサイ（首飾り）に見えましたが、お守りなので、人には見せてはいけないそうです。

アイヌにも“イケマ”というお守りがあります。木を乾燥させ、中心に穴をあけ、生理のあがった人が白い糸と黒い糸を絡んで、イケマの中心に2色の糸を通します。その時もお酒を使って“火”の神様にお祈りします。そして、いろりがなければ、今なら灰皿にティッシュを燃やして、両端の糸に、お酒を使ってまたお祈りします。ティッシュが燃えている間に糸の先を焼き、私なら自分の頭、肩等に火の粉をふりかけ、アイヌ語で祈って、糸先にまだ火が残っている間に素手でもみ消し、私の首にかけて結んでもらいます。そうして、悲しい時、不安な時は、イケマをかじって外に吐き出します。「ウエンカムイ（悪い神）よ、立ち去れ！」。アナさんの石のお守りは、悲しい時、不安な時はどうするのと尋ねたところ、石にキスをするそうです。

彼女の民族衣装もすてきでした。鮮やかな色遣いのウィピル（ブラウス）とコルテ（巻きスカート）は、その色や柄などによって住んでいる場所がわかるそうです。アナさんはとても布を大切にしています。7月1日早朝、洗濯をして、ウィピル、コルテを外に干していたのですが、天気も最高に良い日で、布が日焼けしないように何度もひっくり返し、注意しながら、洗濯物をながめてました。

札幌講演と交流会から

7月1日夜の札幌講演では、スライドを交えて、今現在活動しているコナビグアについて語りました。アナさんのトークは私がいらないスペイン語だけれど、語り始めた彼女の表情、力強い声は、切実なる魂からの叫びのように、私の心に訴えかけてきました。

コナビグアは、グアテマラの内戦（1960～96年）で軍の弾圧によって夫や家族を奪われたマヤの女性たちの団体で、1988年に発足、現在1万2000人ほどのメンバーがいるそうです。夫が連れ去られ、殺され、埋められ、どこに埋められているかもわからず、まだ家族の元に帰ってこない亡きがら。軍が虐殺したこれら多くの人々の亡きがらは、山中に埋められたり、谷間に投げ捨てられたりしていて、コナビグアは法人類学者などと共に、この秘密墓地を探しあて発掘する活動をしているとのこと（編集部注）。内戦終結から10年、でも、まだ終わりはきていないのだと彼女は言う。実際、コナビグアの活動中にもアナ

さんは尾行され、93年に軍に捕まって拷問を受けました。命からがら脱走した場所がジャングルの中、屋根はビニールをかぶせただけの、いわゆる雨、風しのぎのもの。なにより内戦中の食料はというと、山菜、木の実など。私にとって実に衝撃的だったのは、なんと、塩が手に入らず、3年もの間、塩分を摂取できなかったこと。そのために皮膚はカサカサになり、子どもたちも栄養失調になり、下腹部だけが異様にふくらんでいたそうです。子どもたちの寿命は5～8歳。

食事といえば、7月2日はアイヌ料理を囲んで、アイヌの女性たちと交流しました。料理は、イナキビゴ飯、コクカムオハウ(鹿肉汁)、ラタシケブ(混ぜたもの)、トゥレブのてんぷら(オオウバユリのてんぷら)、イモシト&トゥレブシト(芋団子&オオウバユリの団子)、キトピロの醤油漬(ギョウジャンニクの漬物)など。予想どおり、鹿肉が大好物だと言っていたアナさんは、コクカムオハウを喜んで食べました。

今、コナビグアの女性たちは、織物などで生計を立てているとのこと。私もマヤの女性が作ったバッグとシンタ(ターバンのような物で、これが帽子がわりにもなる不思議)を買いました。バッグはしっかりと、また丁寧に織られており、とても丈夫で使いやすいです。シンタも色鮮やかで、はち巻きになったり、布を後ろに引っ張ると帽子になるすぐれ物です。また、マヤの女性は髪を大切にしています。豚の脂の石けん(においはかなりキツイらしい)で髪の毛と体を洗うそうです。アイヌも髪の毛の長い女性が多いです。私も髪が長く、アナさんがマヤの女性の髪の毛の結び方を教えてくれましたが、簡単なようで、結構難しかったです。

女性の仕事もハードで、起床4時。家族のために、食事の準備をします。まず、トルティーヤ作り。トウモロコシを石うすでひき、それをせんべい状に薄く焼いて食べるそうですが、石うす作業はかなり重労働だと聞きました。それから掃除、川で洗濯、薪集め、織物作り、水汲み……私、聞いただけで倒れそうになりました(笑)。そしてコナビグアの活動。秘密墓地の発掘に関しての女性たちの集まりは学校が一番安全だそうで、集会は学校で行われるそうです。

アナさんがコナビグアのリーダーの一人であることを後で知ったのですが、彼女は小学校2年までしか学校に行けなかったそうです。なぜならば、教師がスペイン語しか話せなかったこと、また家計も苦しかったこと、今現在読み書きができない女性もいるそうです。前述しましたが、アナさんの母語はポプティ語、改めてアナさんは努力の人だと思います。小2までポプティ語しか話せなかった彼女が、今はスペイン語も話せるし、もちろん読み書きもできます。本当になぜグアテマラ政府は言葉や民族の血までも奪ってしまうのか。

アイヌ民族も明治よりアイヌ語を禁止されました。アイヌ語を奪われたのです。また、アイヌの女性には口のまわりに入れ墨をいれる習慣もありました。これもまた、禁止になりました。私の小さい頃、口のまわりに入れ墨をしたお婆ちゃんが数人いました。そのお婆ちゃんたちは、アイヌ語でお互い話し笑っていました。私の祖母は入れ墨をしていなかったけれど、アイヌ語はよく話していました。けれど、私の世代では、アイヌ語で話し合える人はいないと思います。今、各地でアイヌ語教室を開いていますが、難しいので、私は一度も行ったことがないです。祖母がよく話していた単語くらいは覚えていますが、単語だけでは会話になりませんよね(笑)。

現実を見据える

話は変わりますが、以前、カレン民族と交流したことがあります。カレン民族もまた、タイ政府により、

若い女性にホルモン剤を月1回だったか半年に1回だったか忘れま^{グアテマラもできない}したかのように注射されたそうです。タイ政府は山岳地にいる先住・少数民族の撲滅政策を行っていたわけです。

10年ほど前、私はジュネーブの国連人権小委員会先住民作業部会に参加しました。先住民族はなぜ迫害されるのか。最後の夜、たくさんの国の先住民族が、それぞれ民族衣装を身にまとい、一つの大きな輪になって踊りました。言葉は全く通じません。けれど、その時、言葉は必要なかった。ただ手を握りあい、その手の温もりと力強さ、そして、それぞれの民族の歌、私は魂のポロリムセ（輪踊り）だと思っています。楽しかったことと、悲しいことが一つありました。ただ一人だけ泣いている人がいました。わけを聞くと、国連と一緒に来るはずだった同族の友人が、国連に来る前に殺された。自分もジャングルに身をひそめ、銃声を聞いていたと……。自分が国連に来られるとは思わなかった。自分だけが助かってここにいて、友人を悔やみながら泣いていました。私は、もう言葉すら出なかったことを覚えています。

アナさんの話を聞いて、内戦終結から10年、私はこの10数年、何をしていたのだろうか。ジュネーブで泣いていた彼の話や、アナさんに会うまで、何も知らなかった、知ろうとしなかった自分が悲しい。このレポートを書いている間、思い出して涙で字が見えなくなる。人間が人間を、ただ先住民族というだけで殺して、何が変わるんだろう。日々追われる人々の心はいつ安まるのだろうか。アナさんに会って、私は、自分を恥じた。自分の無知さに……。

思うように文章を書けなかったけれど、私の思うこと、言いたいことは、民族として命を頂き、けれど民族として命を頂いただけで、拷問、殺りく、追われる日々。先住民族は何か悪いことをしているだろうか？ どの民族も、自然を大切に生きています。私には理解できない。民族のどこが悪いのか。誰か知っているなら教えてほしい。

アナさんに会えて本当に良かった。嬉しかった。アナさんの痛みは私が代わることはできないけれど、これ以上、アナさんたちや他の民族を撲滅する行為は許されないこと、許してはいけないこと。全世界の一人一人が願ってほしい。もちろん、私も含めて……。

今、こうしている間でも、どこかで追われて、不自由な暮らしをしている人がいること。夫を殺され、まだ亡きながらも家族に帰っていない人たちがいること。この時にも、亡きがらを探して活動している勇気あるマヤ民族がいること。夢でも映画でもなく、現実だということを忘れないでほしい。そして、この悲しい現実が、これ以上悲しくならないように。どうぞ、目をそむけないで、耳をふさがないでほしい。

アナ・ペレスさんに会わせてくださった方々に深くお礼申し上げます。ありがとうございました。

編集部注：コナビグアは、秘密墓地発掘のほかに、マヤ女性のエンパワーメント、農村部での女性の組織化、内戦中の人権侵害の責任者に対する法的責任の追及、被害者の尊厳回復などさまざまなプロジェクトを行っています。

（『先住民族の10年News』第127号、先住民族の10年市民連絡会、2006年9月9日発行）

当原稿は先住民族の10年市民連絡会の許可を得て転載させて頂いたものです。転載等の際には、先住民族の10年市民連絡会の許可を得てください。